

特集 第15回 外国人市民による日本語

最優秀賞

『チーズとなっとう...』
ラボレル フローリアン



みなさん、こんにちは。フランスのフローリアンです。

フランス人と日本人が会う時、その関係の中に時々いくらかの理解力不足があります。多くの場合はこの変な感じは「笑い」になります。でも時々その感じは「恐れ」になります。これは“文化の衝撃”ということです。日本に来る前、この広大な障害を乗り越えるのにすごく恐れがありました。

“日本は遠すぎないかなあ。”

“毎日生の魚食べないといけなかな。”

“私の目は切れ長になるかもしれない。”

幸いにもこれは余計な先入観でした。しかし、フランスの文化と日本の文化はぜんぜん違いますから驚きはいっぱいありました。

いろいろな実例があります。

たとえば、料理について話しましょう。食べ物はフランス人にとってとても大事で、私たちの一番の自慢です。はい！私たちはフォアグラとかカエル、かたつむりも食べますよ。これはフランス人の幸せです。

日本人にとっても食べ物は大切ですね。更にこれは日本人の名高い長寿の理由でもあるそうです。私はいくつかの物産品を発見して、日本の食べ物を高く評価するようになりました。それから、ある日、その日本の不朽の食べ物を発見しました。もちろん、納豆ですよ。それから日本人の長寿の理由が分かるようになりました。だって、納豆は他の国の人にとっては死にそうほど臭く、最悪のものなので、それを食べて元気な日本人は何をしても生き残れると思ったのです。

ねばねばしている！臭いですよ！

最近、私が一番好きな食べ物を食べるためにスシヤに行きました。座ってちょっと変なお皿を選んで.....あれ？！また！納豆だ！臭い！もう止めて

ください！フランス人はほとんど嫌いなのに、日本のどこにでもあります。これは“文化の衝撃”ですね。

しかし、フランスにも不朽の名作があります。チーズです。世界中にチーズより美味しい食べ物がありますか？このすてきなチーズ。どろどろ、はこから垂れ落ちる。ちょっと緑。この十日間はいた靴下の臭いととも。それに、すこし腐った部分もあります。味のために。旨い！最高に旨いですよ！でも、日本人は食べられない人が多いです。

これは本当の食べ物で、しっかりしている食べ物ですよ！フランス人の一番の自慢です！フランス人は性格も強い人です。でも、フランス人は日本人が持っている「ある特別な物」を持っていません。フランス人は忘れてしまったかもしれません。

ある日私がコンビニで買い物をした時、事件が起こりました。私はつり銭をもらい忘れてしまいました。お店のおばさんが自分の仕事を放棄して、道まで私を追いかけてきて、このつり銭を渡してくれました。それは一円でした！一円では何も買えないでしょう！でも、その時の、私の反応はどうだったとおもいますか。

“すごい！！”と思いました！本当に！あのすごく優しいおばさんの笑顔を通して、日本人の特徴の美点を認めました。さすが日本人です。こんなに正直で、いつも世話好き、こんなに優しい！日本人は実は自己中心的だという意見もありますね。日本人は社交辞令が多い、と言う人もいます。このおばさんの努力は心からのものだと思います。日本人の寛大さはすごいと思いました。日本人は自分の精神的価値を一番大切にしています。それに、素朴に、生きています。フランス人は、そのことを尊重するだけでなく高く評価します。

はい、でも、日本人は納豆を食べますね。結局フランス人も臭いチーズを食べますね。この二つの食べ物には共通点がありますね。両方とも臭いし、ねばねばしているし.....似ているんじゃないですか？フランス人と日本人の違いも同じことじゃありませんか。なるほど全然違うものだけど、努力してお互いの文化を比べたら、その違いが分かるようになります。

スピーチ コンテスト

ます。その上、違いを高く評価できるようになります。愛のように。

それで、私には日本で文化の衝撃がありませんでした。それより愛の教訓を見つけました。はい！あなたの国に惚れました！

今日言いたいことは一つだけです「ありがとう」これだけです。だって、あなたの優しさやあなたの素朴さのおかげで心に二つ目の祖国ができたんですから。これはpriceless(プライスレス)です。

だから、一緒に友情のグラスを交わしてほしいのです。このすてきな文化の違いの名誉のために。“乾杯”の代わりにフランス人の「乾杯！」を言いながら...「チンチン！」

国際交流協会優秀賞

『私の「恩返し」』

李 相赫(イ サンヒョク)



日本人は親切だとよく言われます。もちろん、親切な人はどこの国にもいるでしょう。でも、私が日本で感じた親切は、「親切」という二文字だけで表現するのでは、何か足りない気がします。私は、日本人の親切には「思いやり」と「恩返し」の姿勢があるのだと思います。

先日、成田空港行きのバスに遅れてしまいました。飛行機の時間に合わないかも知れないと困っていた私にバスターミナルの職員さんは、「バスは10分前に出発したからタクシーに乗ればバスに追いつけるかもしれませんよ。」と教えてくださいました。それで、タクシーに乗ってバスを追いかけましたが、なかなかバスが見えなくて焦っていました。ところが、次の瞬間タクシーの前方でさっきの職員さんがバスを止めて私を待っている姿が見えました。さっき出発したバスは、ターミナルの周りを大きく一周してターミナルの後ろ付近を過ぎる路線のバスでした。その職員さんは、「もしかしてさっきのバスはここをまだ過ぎていないかもしれないから、ここで待っていました。」と言いました。ターミナルの近くだとはいえ、かなり離れたところまでわざわざ歩

いてきて、しかも、もう過ぎて行ってしまったかもしれないバスを待ってくれたその職員さんが本当にありがたかったです。こんな行動は表面だけの親切からはどうい生まれてこないのではないのでしょうか。やっぱり、相手の立場を親身になって思いやる心があるからだと思います。

この思いやりは日本人の言葉使いでも感じられます。日本人は電話を切るとき、「すみませんでした。」とか「失礼しました。」とよく言います。実際にすまないことをしたわけじゃないのに、なぜこのように言うのかと日本人の友だちに聞きました。彼は「これはたぶん電話して相手の時間をうばった、あるいは邪魔したという考えがあるからじゃないかな」と言いました。なるほど、私はあらためて相手に配慮する日本人の思いやりを感じました。

こんな温かい思いやりがあるからか、思いやりを受けたら、日本人は何とかしてそれを返そうとするようです。たとえば、日本のテレビで、野球などのスポーツ選手が勝利のインタビューをするとき、自分を育ててくれた監督やコーチに恩返ししたかったとよく言います。普通はファンの応援に対してお礼を言えば十分なのに、わざわざ監督やコーチにまで感謝の気持ちを伝えようとします。そんな姿を見ると、日本人がいかに相手から受けた恩を大事にしているかがよくわかります。

思いやりは自分だけでなく、相手を考える気持ち、恩返しは相手からもらったことを忘れずに相手に返そうとする気持ちで、両方とも相手に配慮する心だと言えます。もし、私たちの周りに自分のことばかり考える人、相手から受けた恩を知らんぷりする人ばかりいたら、そんな社会はどんなに寂しく、冷たくて、住みづらくなるでしょうか。ですから、思いやりと恩返しはこの社会をより温めてくれる宝のようなものだと思います。私は日本に来て思いやりと恩返しの心に接して本当によかったと思います。いつか機会があったら、私の子どもを日本に留学させ、私が経験したようなことを体験させたいです。そして、自分だけでなく相手にも配慮ができる人に成長してほしいです。

韓国と日本は過去の歴史問題があるので、韓国には日本について良くない先入観を抱いている人がまだいます。私は韓国に帰ったら周りの友だち、知人にこのような日本のいいところを伝えるつもりです。これが、日本に対しての私なりの恩返しになると思います。

川崎ライオンズクラブ優秀賞

『私の趣味 アメフト』

李 征平(リ セイヘイ)



私の趣味はアメリカンフットボールです。短くしてアメフトです。初めてこのボールを見たのは、私が5歳のときでした。それは兄のボールでした。そのときのボールがどんなものだったか、今でもはっきりと覚えています。

中学2年生のとき、私は本屋で「ノーサイド」という漫画を見つけました。それはラグビーの漫画でした。私はその漫画が大好きで、何度も何度も読みました。実はそのときの私は、ラグビーとアメリカンフットボールの違いがあまりわかっていませんでした。でも、ラグビーボールとアメフトのボールの見分けがつかない人は、この中にもたくさんいらっしゃるのではないかと思います。

2006年2月6日。私はあの日のことが決して忘れられません。朝7時半に起きて、テレビをつけると、プロのアメフトチームの全米ナンバーワンを決める、第40回スーパーボウルをやっていました。私が初めて見たアメフトの試合です。胸がどきどきしました。「これはアメフトだ！」その時から、Football is my life. これが私の信念になっています。

それから、私はアメフトの情報をずっと探し求めました。ある日、インターネットでNFL中国公式サイトを見つけました。超うれしかったです。それで、いろいろな情報を手に入れました。アメフトのルールもわかったし、私と同じようにアメフトが大好きな人たちとも知り合い、友だちになりました。そして、ボールやユニフォームなどを買いました。友だちとアメフトをするのはとても楽しいです。雨の日にも雪の日にもしたことがあります。

私は去年の4月に日本へ来ました。もちろん、ボールも一緒に持って来ました。でも私はずっと寂しい思いをしています。アメフトをする人が周りに一人もないからです。国にいる友だちは私に「早く帰って来い。いつ帰って来るんだ。」と言います。私も帰りたいたいが、そう簡単に帰るわけにはいきません。

日本は中国よりアメフトの情報が溢れています。アメフトの雑誌はあるし、チームはあるし。私は雑誌も買い、ヘルメットも買い、野球場へアメフトの試合も見に行きました。それから、「アイシールド21」

というアメフトの漫画もあります。ある日、私一人でボールを持って遊んでいたとき、10歳くらいの少年二人が「お兄ちゃん、一緒に遊んでもいい？」と声を掛けてきました。その子ども達も漫画のファンのように、3人で漫画の真似をして遊びました。本当に面白かったです。

将来、私はアメリカンフットボール部がある学校に入るつもりです。そのために体の鍛錬も続けていきます。運動は体にいいです。私の夢はアメフトの選手になることです。「私はアメフト選手だ！」ずっとこの夢を心に描き続けています。朝起きられないとき、勉強やアルバイトで疲れたとき、この夢を思い出すと、すぐに力が湧いてきます。将来アメフト選手になれるにしろ、なれないにしろ、Football is my life. これです！

講評

審査委員長 関口 明子
社 国際日本語普及協会 地域日本語教育担当理事

15回コンテストは甲乙つけがたく、点数では僅差でどなたが入賞してもおかしくないのが特徴でした。どなたも自分の言葉で心から言いたいことを話され素晴らしかったです。

「最優秀賞」、フランスのフローリアンさん、「チーズとなっとう」を題材にフランスと日本の食べ物の特徴や共通点からお国柄まで、にこやかに表情豊かに話され、会場の皆さんも楽しそうに聞き入っていました。

「国際交流協会優秀賞」、韓国^{イサンヒョク}の李相赫さん、「私の『恩返し』」バスの職員の行為を絵図を持ってきて分かりやすく説明され、本当の親切という訴えがよく伝わりました。

「川崎ライオンズクラブ優秀賞」、中国^{リセイヘイ}の李征平さん、「私の趣味アメフト」は焦点を絞り込み、アメフトへの強い思い入れがよく分かりました。

「国際交流協会特別賞」、アメリカのアイヴァーさんは日本人の奥さんとの日常の会話をもとに、文化の違いから生じる誤解をユーモラスに話されました。

「ライオンズクラブ特別賞」、韓国^{ソジョン}の曹在雄さん、「情けは人の為ならず」は自然な話し方で、表現もさりげなく発音もよかったです。落とした財布を全部返してもらった体験を生かし、日本の良さや自国の良さを合わせ、思いやりを持って生きたいというお気持ちが伝わってきました。

今回のスピーチでは、皆さん期せずして“国の違いや文化の違いから誤解が起きることもあるけれど、根底に「思いやり」が大切なこと”を共通して述べておられました。